

■高校野球のケーススタディー（第34回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○区画線、意識されていますか？

●公認野球規則の2.01：競技場の設定 ●野球競技場区画線(1&2)…参照

普段、オープン戦をされる時に今日はバッタースボックスがホームベースに近いかな。ベースコーチのコーチボックスがファウルラインに近いなあ。なんて、感じたことはありませんか。

県下公式戦（神戸地区大会を除き）は球場で行われています。区画線についてはルールで定められており、各球場変わることはありません。日々、同じ距離感で試合をできるように今回は区画線についてQ&A方式で深めてみたいと思います。

【第1問】 Q. 区画線の太さって、何インチでしょうか？

A. 【3インチ：約7.6cm】です。これはボール1個分と同じ太さとなります。オープン戦では時々ラインの細い学校もあると思いますが、規則で定められている上、フェアファウルにも影響するので、可能であれば意識してみてください。ちなみに、ホームベースから両翼にかけて引かれる線をファウルラインと呼びますが、インフライトの打球で1、3塁ベースを超えてファウルラインに触れた打球はフェアです。

【第2問】 Q. ホームプレートとバッタースボックスの間は何インチでしょうか？

A. 【6インチ：約15.2cm】になります。つまり、ボール2個分となります。余談になりますが、ホームプレートがボール6個分の大きさで、そこから両サイドにボール1個分がストライクゾーンの幅（合計ボール8個分）、さらに両サイドにボール1個分空いてバッタースボックスとなります。球審をする人は、このホームベースとバッタースボックスの間のボール2個分の見極めを信念をもって精度を高めていきましょう。

【第3問】 Q. キャッチャースボックスの幅は何インチでしょうか？

A. 【43インチ：約109cm】になります。野球において、投手と捕手だけが守備位置が定められています。公認野球規則5.02(a)「捕手は、ホームプレートの直後に位置しなければならない」と定められています。この幅はボール換算にすると約14個分になります。この中で打者との駆け引きをしてほしいです。





【第4問】 Q. ベースコーチのコーチボックスはファウルラインから何メートル離れているでしょうか？

A. 【15フィート：約4.5m】になります。公式戦の中で、審判員から「コーチボックスから出すぎているよ」と指導を受けた選手も多いのではないのでしょうか。もし、仮に走者と接触し肉体的援助があったと認められた場合は走者アウトとなるケースがあります。普段のオープン戦から適切な距離感で走者に指示を出す練習をしてもらいたいと思います。また、一試合を通じて、コーチボックスのグラウンド側のラインを消さないように意識してみましよう。

今回は、区画線にまつわる内容でしたが、グラウンド上では他にも様々な規格設定がされています。公式戦で戸惑うことがないよう常日頃から正しく規格設定された環境で練習を重ねていってください。

表題デザイン協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
表題デザイン：日下部 心咲さん（74回生）

野球競技場区画線(1)
(本文2.01参照)

-  : 第1問 ラインの太さ
-  : 第2問 ホームプレート
バッタースボックス
-  : 第3問 キャッチャースボックス
-  : 第4問 コーチスボックスの距離



野球競技場区画線(2)
(本文2.02, 2.03, 2.04参照)

